TOPICS

カメリア会主催 合同防災訓練

●社会福祉法人カメリア会
特別養護老人ホーム カメリア、パークサイド亀島
墨田区特別養護老人ホームなりひらホーム
●医療法人社団湖聖会 介護老人保健施設 キーストーン
●亀戸三丁目 宮元町会

2024年9月6日（金）16:00～18:00

特別養護老人ホーム カメリア 地域交流スペース（オンライン併用）

【第1部】災害時用簡易トイレの使用方法
【第2部】施設職員による消火訓練

毎年、定期的に防災訓練などを実施している社会福祉法人カメリア会では、今回、江東区3施設と近隣の特養なりひらホーム、宮元町会による「合同防災訓練」を開催し、約50名が参加した。第1部は災害時用簡易トイレの使用方法、第2部は訓練用消火器を使った実技訓練を行った。

災害時に必要な防災知識や実践的な防災行動を学ぶ

合同防災訓練の第1部では、湖山医療福祉グループの首都圏施設で備蓄を進めている災害時用簡易トイレ袋「イージートイレ」の使用方法について、製造元の関西ペイント株式会社の岩崎浩行氏よりレクチャーを受けたが、この企画に至った背景について特養カメリア施設長の菅野僚氏は、次のように説明した。

特養カメリア 施設長・防火管理者
菅野 僚さん

関西ペイント㈱
岩崎 浩行さん

「企画したきっかけは、今年1月に発生した能登半島地震でした。湖山医療福祉グループでは、湖山泰成代表が創設にかかわり、現在、代表理事を務めるNPO法人『災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード』の一員として、当法人の職員が能登被災地へ支援に入りました。その際に浮上したのがトイレに関する課題です。

当然のことながら、断水すると水が流れないので、トイレはすぐに使用できなくなります。排泄物が廃棄できないということは衛生管理上の問題となり、施設では感染症などのリスクが大きくなります。

そこで水を使わずに衛生的に処理できる方法として必要性が高まったのが災害時用トイレ袋の備蓄でした。このイージートイレは被災地各地で実際に使用され、その有効性が実証されたことから湖山医療福祉グループの備蓄用として購入することになりました。

私どもの高齢施設で使用する場合は、ポータブルトイレに活用することが多いと思いますので、本日は実際にどのように使用するのか、使用するときの注意点やポイントなどについて具体的に教えていただきたいと思います」

簡易トイレの使用方法を具体的に学ぶ

実際に消化器を操作し、火元（三角コーン）へ向けて放射

その後、岩崎氏よりポータブルトイレ状況としてマンホールトイレや仮設トイレの実際の使用状況や課題などについて解説があった。

たとえば、水洗トイレが使えないと、排泄物の処理が滞り、排泄物中の細菌によって感染症などが発生するおそれがある。また、避難所などの仮設トイレでは、排泄物がたまって不衛生状態となるため、トイレの使用をためらう人が増える。排泄を我慢することは、水分や食品摂取を控えることにつながり、被災者の栄養状態悪化や脱水症状、深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群）などを引き起こす可能性が高まることがわかっている。

岩崎氏より、排泄物を衛生的にスムーズに処理できる災害時用簡易トイレ袋の具体的なメリットを聞いたり、ポータブルトイレへの使用方法を実演してもらったことで、災害時のトイレ対策がいかに重要か、参加者の認識が高まったようだ。

イージートイレ1袋で大人1回分の排泄をカバーでき、一人あたり1日5袋が必要。1施設200名（利用者100名、職員100名）として1日1000袋が必要となる。簡易トイレの備蓄の目安は1週間といわれるが、特養カメリアではイージートイレ1万6000袋を備蓄した。

続いて、訓練用消火器を用いた実技訓練を実施した。参加者は、防火管理者である菅野氏から消火器の操作について説明を受け、三角コーンを火元に見立てて、実際に消火活動を行った。

訓練用消火器は、本物の消火器と同じ大きさで、中には水が入っている。消火器のレバーを押すと水が勢いよく放射され、レバーを離せば止まるが、本物の消火器は、使い出すと中身がなくなるまで止まらないので要注意。

消火器の使い方は①安全ピンをはずす、②ホースをはずし、先端をしっかり持って火元に向ける、③レバーを強く握る、という3ステップだ。

参加者からは「いざというとき使えないと困るので、何回か訓練が必要だと思った」「思ったよりも消火器が重く、レバーを押すのに力が必要だった」「次回は、館内の消火器を1ヵ所に集める訓練もしたい」など、消火器の使い方はもちろんのこと、訓練の大切さを実感したという声が多かった。

法人・グループの持つ独自性ある防災資源

地域の防災拠点としての役割を担う社会福祉法人カメリア会の各施設には、自衛隊などにも導入実績のあるアキレス株式会社の「災害用レスキューボート」を配備されている。

江東区は、洪水による浸水被害を受けやすい地域だけに、法人職員の一人ひとりの意識や防災行動（自助）、地域住民が協力して行う防災活動（共助）が重要なのである。

KERT 3号

KERT 1号

KERT 4号

KERT 2号

また、コロナ禍がきっかけとなり、法人グループの災害時支援車両として配備したのがKERT（Koyama Emergency Rescue Team）だ。

当時、新型コロナ感染症のクラスターが発生した施設へPCR検査キットや感染対策に必要な備品を運んだり、近隣の保育園や高齢施設への感染対策支援に活用した。

現在は、KERT1号のほか、おもに物資を運搬する冷凍機能付きKERT2号、キッチンカータイプのKERT3号がある。

また、被災地へ支援に行く際は、水や食料、宿泊など、被災地に迷惑をかけないよう、ボランティアは自己完結が原則である。そこでキャンピングカータイプのKERT4号も配備。当法人からの支援だけでなく、被災地のボランティアの後方支援にも活用する予定だ。

レスキューボート